

2030年ありたい姿

地域の方々や県、市町村、自治会、取引先やグループ会社、関連団体などとも連携を深め、あらゆるところで一緒に取り組みをすすめます。

協同組合として、安心してらせる地域の実現をめざします。

食だけでなく生活全般の課題を、さまざまな視点やアプローチで解決します。

商品やサービスを利用する場としてだけでなく、生活全般の課題を解決する場へと進化します。

2030年には、それぞれの地域と連携した居場所(拠点)が県内39すべての市町村で実現できていることをめざします。

ならコープ
第12次中期計画
2030年ありたい姿
イメージ動画



SDGs(持続可能な開発目標)の実現のために 私たち自らの消費行動や くらしのあり方を見直しましょう



理事長 吉田 由香

ならコープは、日本生活協同組合連合会が提唱するコープSDGs行動宣言に基づき、持続可能な社会・自然共生社会・循環型社会の形成に取り組んでいます。2021年度は、2020年度に続き、新型コロナウイルス感染症の波が繰り返され、また、現実には起こった軍事侵攻による惨劇を目の当たりにし、創立以来大切にしてきた平和の理念「よりよい生活は平和であってこそ実現する」への想いを、より一層強くしているところです。

組合員と職員がともに学び合う「組合員のつどい」を、「誰もが安心してくらせる地域社会、みんなが笑顔で生きられる社会の実現を目指して」～エシカル消費で変わる未来それは誰かの笑顔につながるお買い物～をテーマに開催し

たところ14,335人の参加があり、商品の向こう側の「人々」や「環境」を想像し、「今、地球で起こっていること」に思いをはせました。

2022年3月4日にリニューアルオープンしたコープ学園前は「環境にやさしく」「健康にくらせる手助けができるお店」「安心してくらせる地域に」の3つの想いをコンセプトに総合地域拠点として生まれ変わりました。また真美ヶ丘の店舗はSDGs推進店舗としての再出発に向けて準備をすすめています。

「サステナビリティレポート2022」では、環境・社会・経済面で生協の価値を高める実践を通じた、2021年度のならコープ及びならコープグループの「社会の持続可能性に配慮した経営」を報告させていただきます。

ならコープ概要 (2022.3.31現在)

名称	市民生活協同組合ならコープ	
創立	1974年7月25日	
本部	〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号	
職員数	1,505人 (総合405人、専任55人、定時1,045人 (内、障がい者雇用人数28人))	
施設数	本部1/支所(配送センター)4 コープふれあいセンター六条1/店舗10 吉野事業所1/田原本物流センター1 たかだ未来づくりステーション1 ならコープ下市ステーション 1	
子法人及び 関連法人	(株)奈良コープ産業 (株)CWS (株)ハートフルコープなら (株)ハートフルコープよしの	(株)コープエナジーなら 竜田自動車(株) (有)竜田総合保険事務所 東吉野水力発電(株)

供給高

386億6,581万円
(前年比92.0%)

2020年度までの会計基準では供給高が405億9,881万円となります。

内訳	無店舗事業:	281億6,911万円(前年比94.7%)
	店舗事業:	91億9,670万円(前年比84.2%)
	宅配事業:	12億9,921万円(前年比96.4%)

組合員数

279,117人
(前年比100.4%)

県内加入率 **50.9%**

出資金

114億6,734万円
(前年比104.3%)

ならコープが目指すサステナビリティ・ビジョン

2021年度 基本方針

事業と活動を通じて組合員の暮らしに、貢献し続けます



コープSDGs行動宣言

私たち生協は、SDGs (持続可能な開発目標) に貢献することを約束(コミット)します。



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます



ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します



誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します



SDGs



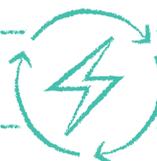
誰もがいつまでも 笑顔でらせる社会へ

2022 SUSTAINABILITY REPORT

食の安心・安全の取り組みを通して、消費活動やくらしの在り方を見直してきました。
協同の力で、人間らしくくらしを創造して、平和で持続可能な社会を実現します。



エネルギー対策と環境への取り組み

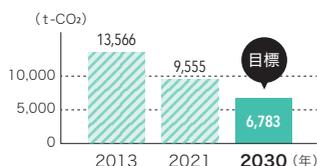


ならコープの2030年環境ビジョン

2020年に策定した「ならコープの2030年環境ビジョン」に沿って、温室効果ガス削減、食品ロスの削減、プラスチック容器包装材と資材の削減、エシカル消費の拡大に目標をもって取り組んでいます。

目標
1

CO₂排出量を50%削減 (2013年度対比)



2021年度は店舗改装時には冷蔵・冷凍ケースなど店舗の省エネ化や車両燃料の削減などにより、CO₂総排出量は9,555 t-CO₂ (前年差▲738 t-CO₂、前年比92.8%)と温室効果ガス削減を実現しました。

店舗の冷蔵・冷凍ケースを最新の省エネ設備に

コープ学園前のリニューアル(2022年3月)にあわせ最新式省エネ冷蔵・冷凍ショーケース、LED照明、空調を導入し、電気設備の28.7%の省エネ化を実現しました。



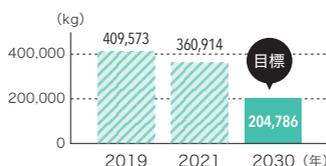
電気自動車・水素燃料車両の配置

ガソリン燃料使用量削減をめざし、本部業務車両に新たに電気自動車と水素燃料車両を配置しました。環境配慮型車両(水素自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド車)の導入は合計54台となりました。



目標
2

食品ロス50%削減 (2019年度対比)



店舗では発注精度の向上、来店客数、来店時間の予測による陳列量の精査を実施しました。事業活動における生ごみ排出量は360,914 kg (前年差▲16,399 kg、前年比88.1%)となりました。

フードバンク活動に協力

こども食堂や福祉施設などに食品品などを寄付する「フードバンク」の活動に協力しました。無店舗事業のキャンセル品や余剰在庫、店舗事業の管理期限切れ商品をフードバンク奈良や社会福祉法人などに合計3,879.6 kg提供しました。

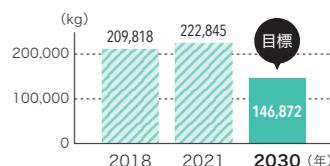
廃棄品への取り組み



全店舗に食品ロスコーナーを設置し、組合員に協力を呼びかけました。また、「てまえどり」のPOP掲示などを行い、組合員の協力を呼びかけました。

目標
3

プラスチック容器包装排出 30%削減(2018年度対比)



食品トレーの削減、プラスチック製スプーンを木製に、ストローを紙製に切り替えるなど事業活動におけるプラスチック容器包装排出量は222,845 kg (前年差▲4,092 kg、前年比98.2%)となりました。

ノントレー包装機の導入



コープみみなし、コープ七条、コープなんごう、コープ学園前、ティアーズコープいこまでは、ノントレー包装機を導入し、畜産一部商品は食品トレーを使用しない商品陳列を実現しました。

傘の滴とり機の全店導入

ポリエチレン製傘袋を使用しない「傘の滴とり機」を2022年2月から全店舗に導入しました。





持続可能な生産と消費のために



エシカル消費の普及



組合員と職員が商品やくらしの課題を学び、交流する『組合員のつどい』は、「エシカル消費」をテーマに取り上げました。素材の選定、生産から消費までのプロセスで人と環境に配慮しつくられたエシカルな商品。これらを消費することがSDGsにつながることを共有しました。学習会や動画を視聴し、オンライン企画などによる、新しい参加形式も取り入れて開催し、全体では14,335人の参加になりました。

産直交流会

2022年2月に組合員と生産者が交流する場として産直交流会を開催しました。事前に参加者に産直商品のみかんやピーマンなどのサンプルを送付し、試食したうえで組合員と生産者がそれぞれの思いや要望を出し合いました。生産者・取引先23人、組合員25人、役職員等62人が参加しました。



ならコープの産直とは

ならコープの「産直」とは「産地直送」ではなく「産地直結」を意味します。組合員と生産者の双方が信頼と納得で結ばれたよりよい商品をお届けすることをめざします。



▼紀ノ川みかん

▲沿道トマト

HACCPの取り組み

食品衛生法の一部改正により、2021年6月からHACCP(食品取扱の衛生管理手法)に沿った衛生管理が制度化されています。店舗では2020年度から部門チーフ、管理者の学習会を継続して実施し、部門ごとの衛生管理計画、重要管理点を定め、帳票を作成して運用を開始しました。無店舗事業でも、品温上昇による品質劣化防止を主な目的として、職員の学習、帳票作成をすすめ、運用を開始しました。



健康づくりとたすけあい

医療従事者応援プロジェクト
(4/1~8/31)

コープ共済連合会による、新型コロナウイルス感染症と闘っている医療従事者を応援するため実施した「マイページお手続きでOnlineたすけあい〜CO・OP共済医療従事者応援プロジェクト〜第2弾」(4/1~8/31)において、ならコープ組合員・役職員から19万4,800円が寄せられました。コープ共済連を通じて、全国の医療福祉生協に届けられました。

コミュニケーションボード設置

コロナ禍によるマスク着用によって、聴覚障がい者が相手の表情をつかみにくくなったことを受け、2021年11月からディアーズコープたつたがわとコープみみなしにコミュニケーションボードを設置しました。これは、聴覚障がい者の方などがボードにある文字や絵を使用して職員と意思疎通をはかることができます。今後は全店の設置をめざします。

コープたすけあいの会

「困った時はお互いさま」の気持ちで、組合員が高齢者や産前産後の方の自宅で掃除や洗濯などをおこなう有償活動です。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動の縮小を余儀なくされましたが、404人の方が利用されました。

リーディングサービス

視覚障がい者の方にもならコープの宅配を利用できるように組合員ボランティアが商品案内書を音声で吹き込み、音声カタログCDをお届けしている活動です。今年度は38人の方にお届けしました。

奈良県医療福祉生協との共催

奈良県医療福祉生協とならコープが地域の健康づくりのために、コロナ感染症対策を講じた上、毎月、コープふれあいセンター六条で地域住民が気軽にしゃべりできる「すこやかカフェ」を開きました。

数字で見る!! ならコープ

コープ福祉募金 (2021年3月~2022年2月)
113万8,313円



新型コロナウイルス感染症対応



●新型コロナウイルス感染者への 自宅療養セットの提供を支援

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、6市町(奈良市・天理市・大和郡山市・大和高田市・安堵町・河合町)から自宅療養セット(食料品)の手配の要請を受け、買い物支援協定、物資協定に基づき、合計4,000セット以上をお届けしました。

●大学生協に寄付

新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生生活にも大きな影響が出ていることから、奈良県生活協同組合連合会の会員である県内4つの大学生協に2022年3月に総額100万円寄付しました。寄付金は食堂のメニューの充実や価格の改定など、学生を支援する目的で使用されます。

奈良県環境県民フォーラムに寄付

「奈良桜よしの天然水8Lボトル」1点利用につき1円を積み立て、環境保全活動に取り組む「奈良県環境県民フォーラム」に寄付し、奈良県の環境保全につなげます。2021年度は64,546円となりました。

五條市と安心してらせる 地域づくりのため 「包括協定」を締結



2022年3月にならコープは五條市阿太地域で農業事業に参入することを機に、五條市と、地域の活性化と地域経済の発展などを目的に「連携と協力に関する包括協定」を締結しました。これまでに奈良県、吉野町、下市町、川上村、下北山村と包括協定を締結しており、五條市とは市町村で5番目となりました。

被災地支援

●「桜ライン311」を支援

「桜ライン311」は、「今後、津波が発生したときは、この桜並木より高いところに逃げて命を守ってほしい」という願いを込めて東日本大震災で被害の大きかった岩手県陸前高田市の津波最大到達地点に桜を植樹している団体です。ならコープは、2014年から「桜ライン311」の活動を応援しており、2021年度は役職員6人が植樹活動に参加しました。また運営資金支援として20万円を同法人に贈呈しました。



●「かけあしの会」を応援

東日本大震災から11年。東北応援企画として岩手県宮古市で、被災者の自立と生活再建を支援する(株)かけあしの会を招き、宮古マルシェを開催しました。コープなんごう、コープ学園前で開催し、東北の特産品が販売されました。



吉野の森と水を守るための募金



地産地消をすすめる取り組みの一環として、2009年から奈良県農業協同組合(JAならけん)と連携し、「吉野の森と水を守るための募金」に取り組んでいます。2020年度の募金額は105万744円となり、奈良県森林組合連合会にドローン機材一式を贈呈しました。ドローンはスマート林業の推進に役立てられます。

数字で見ると!! ならコープ

○ ○ ○ ○ ○
吉野の森と水を守るための募金
(2021年度) **99万8,752円**

移動店舗8号車導入

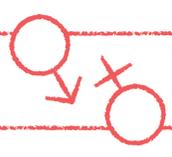
コープあったか便移動店舗は、お買い物に困っている地域の方々のために生鮮品を含めた食品をのせて運行しています。高齢化がすすみ住民が買い物に困っている地域の自治体からの強い要望に応え、8号車を導入、新コースを増設しました。



数字で見ると!! ならコープ

○ ○ ○ ○ ○
東日本大震災目的別募金 **149万9,914円**
○ ○ ○ ○ ○
2021年8月大雨災害支援募金 **226万5,249円**

ジェンダー平等と職場環境づくり



ハラスメント研修

ならコープは働きやすく、風通しのよい組織風土をつくるため人権尊重、ハラスメント行為の禁止、プライバシーの保護、公私混同の禁止、労働関連法令の遵守を行動基準としています。2021年度は全職員対象に「ハラスメント防止研修」を実施しました。また、管理職対象に「人材を大切にす職場研修」を実施しました。

定年延長

正規職員(総合職員・専任職員シニアエキスパート)の定年を2022年度から、誕生日の末日から年度末に延長しました。

無店舗事業熱中症対策

職員が猛暑の中でも健康に配達できるよう、熱中症対策として空調服、吸汗速乾インナー、アイスベストを新たに導入しました。



明るい未来のために子ども支援



フードドライブ



子ども食堂への支援、食品ロス削減などを目的に、家庭で使いきれない未開封の食品や未使用の文房具を預かるフード(文房具)ドライブを実施しました。2021年度は店舗や配達で122回開催し、のべ1,566人から食品4,693.5kg、文房具989.789kgが寄せられました。食品はフードバンク奈良へ、文房具は学習支援団体、社会福祉協議会などにお届けしました。

子育て支援「つながる箱」



奈良県との「連携と協力に関する包括協定」にもとづき、2018年から地域全体で子育てを応援し、地域とつながるきっかけとして、1歳までの赤ちゃんを持つご家庭に育児用品を詰め合わせた「つながる箱」をお届けしています。2021年度は3,072件お届けしました。

子ども・学生 未来応援プロジェクト

コープ共済連合会は加入者専用Webサイト「共済マイページ」への登録・利用1件につき50円を日本生協連合会「子どもの貧困支援活動応援助成」と全国大学生協連奨学財団「たすけあい奨学制度」に寄付する「子ども・学生未来応援プロジェクト」(10/1～1/31)を実施しました。ならコープの組合員・役職員からは12万8,050円が寄せられました。

数字で見ると!! ならコープ

- ユニセフ募金
- **136万4,275円**
- (うち、93万円をミャンマー指定募金として贈呈しました。)

核兵器廃絶と世界平和の実現を



日本政府に核兵器禁止条約の 署名・批准を求める署名

2021年8月から10月まで日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」に取り組み、7,858筆が寄せられました。

ロシアによるウクライナへの 軍事侵攻の中止を求める声明

2022年2月25日に「ロシアによるウクライナへの軍事侵攻への抗議と即時中止を求める声明」を発し、在日ロシア連邦大使館に送付すると同時に人道支援のためのウクライナ緊急募金に取り組みました。

数字で見ると!! ならコープ

- **ウクライナ緊急募金**
- (2022年3月31日現在) **32万7,665円**
- **被爆者救援募金**
- **40万2,561円**